

博物館ニュース



図1 小松島市和田島のえびす舞の木偶人形



図2 木偶頭(複製)
大阪市茨田安田遺跡出土 (大阪府教育委員会蔵)

えびす木偶人形と出土した中世の木偶頭

図1は、小松島市和田島のえびす舞でつかわれる三人づかいのえびす^{でこ}木偶人形です。神の依代^{よりしろ}とされるえびす人形が、豊漁祈願、安全祈願のため、地区内の神社、漁港、網元などをまわってえびす舞を奉納します。図2は、大阪市の茨田安田遺跡出土の中世の木偶頭です。高さ 8.8cm 右耳と鼻が少し欠けているほかはほぼ完形です。首に深さ 2.3cm の穴があげられています。ここに棒を差し込んで操っていたのでしょう。そうだとすれば、現在の人形頭と同じもち方をしていたことになります。

企画展「人形・ひとがたー祈りから遊びまでー」では、土偶、人形など信仰され、流され、送られる「祈りの人形」から、装飾され、贈られる「遊びの人形」へと移り変わっていく過程をたどりながら、さまざまな人形を紹介します。

(民俗担当：磯本宏紀)

アサギマダラの調査から

大原賢二

はじめに

アサギマダラ(図1)が季節による渡りをするチョウである…という事実が判明したのは、今から約30年前のことです。現在では全国的に調査が行われるようになり、各地で多くの人々がアサギマダラのハネにマーク(標識)を付けて放し、どこかで再度発見されることで、このチョウの移動コースや距離、移動日数などの記録がたくさん得られています。また、台湾や中国への移動も確認されています。

徳島県でこのチョウの移動に関する記録が初めて得られたのは2000年の秋で、ちょうど10年が経過したことになります。この機会に、これまでの調査で得られた記録を整理してみたいと思います。

1. 標識個体数

徳島県の平地でアサギマダラが見られるのは、春の北上期(4月下旬頃から6月上旬)と、秋の南下期(9月下旬から11月上旬)です。この時期を中心に何人かの方が調査を実施してくださっています。県内の主な調査地は、鳴門市妙見山、徳島市眉山、小松島市日峰山、海部郡美波町(旧:由岐町)明神山などです。

この10年間に県内で標識を付けられたこのチョウの総個体数は、春が合計1,561個体、秋が18,254個体となります。平均すると春が156個体/年と、秋が1,825個体/年となりますが、このほとんどは明神山(図2)で標識をつけられたものです。特に、春にこれほどの標識ができる調査地は、九州や四国、近畿地方などでもありません。



図1 アサギマダラ:メス

2. 過去の移動記録

(1) 徳島県での再捕獲件数 合計212件、再々捕獲件数 合計6件

再々捕獲個体とは、ある地点で標識され、一度どこかで再確認されたものが、徳島県でもう一度確認されたものです。現在は、再確認した後、再び放しますのでこのような記録が増えると、このチョウの移動のコースがより詳しく分かってくると思われます。

徳島で再捕獲されたもののうち、山形県の蔵王(3例)や、福島県耶麻郡北塩原村(30例)などが東北地方からの個体となっています。他に群馬県赤城山や栃木県日光、山梨県、長野県、愛知県や石川県、滋賀県からも多く飛来してきています。近年は大阪府高槻市や兵庫県宝塚市などの河川敷に外来種であるミズヒマワリが繁殖し、そこで多くの個体に標識がつけられ、徳島への飛来も増えています。また、高知県から逆戻りする形で見つかる例も少なからずあり、風に乗ってしまうとその季節の移動方向とは違って見える方へ動く例も増えています。

(2) 徳島県からの移動記録 合計153件

- ・高知県:100(夜須町:12、室戸岬:54、幡多郡:12、高知県の他の場所:22)
- ・鹿児島県:35(指宿~開聞岳周辺:3、坊津~野間岳:2、屋久島:2、小宝島:2、喜界島:21、奄美大島:5)
- ・沖縄県:7(沖縄本島4、南大東島1、竹富島1、与那国島1)
- ・徳島県内での移動確認:(7)
- ・三重県など:(4)



図2 海部郡美波町明神山全景

秋季の南～西への移動においては、高知県室戸岬への記録が非常に多く、54個体が室戸岬で発見されています。しかし、近年の高知県での調査によって、四国の南岸寄りではなく、中央～やや南部寄りを東から西へ横切る形の移動も相当多いことがわかってきています。

南西諸島では、鹿児島県喜界島への移動が21例と多いのは興味深いものです。

3. 訪花植物

春季はイボタに多く、ウツギ、トベラがそれに次いでいます。春のアザミにはほとんど飛来しないようです。また天候によってはキョウチクトウ科のサカキカズラを訪れる個体も見られます。

秋季はヒヨドリバナ、アザミへの訪花がほとんどですが、人家周辺では植栽されたフジバカマへの飛来も増えています。秋の終わり頃になると、センダングサやセイタカアワダチソウ、ツワブキなどへの訪花も多くなります。

4. 徳島県での食草(すべてガガイモ科)

(1)キジョラン(県内各地に見られます。沿岸部からやや内陸部まで、冬季の食草としては本種しか知られていません)

(2)シタキシソウ(鳴門市葛城神社で葉裏についた幼虫2頭を発見。それ以降の記録はありません。)

(3)ガガイモ(1998年に海部川、旧海部町などで少数ですが発生した記録があります。)

(4)オオカモメヅル(産卵行動や幼虫を伊島、大川原高原などで観察)

(5)イケマ(徳島県では産卵や幼虫の確認はしていませんが、剣山系などやや高いところに見られ、葉が多いので夏季の重要な食草と思われます。)



図3 ヤマワキオゴケ(海陽町)

(6)ヤマワキオゴケ(図3、4)(本種を利用するという事は知られていませんでしたが、アサギマダラが平地では見られなくなる7月～8月に、海陽町で多くの幼虫が確認されました。ハエの寄生率はかなり高いですが、葉が薄いことから利用しやすい食草と思われます。詳細は不明です。)

5. 徳島県での天敵例

(1)幼虫ではマダラヤドリバエの寄生が最も多い。

(2)蛹(屋外に植えたキジョランでの飼育状態)

2006年4月に、4個の羽化直前の蛹がアリに蛹殻を食い破られ捕食された。ハリブトシリアゲアリ *Crematogaster matsumurai* と同定された。(九州大学の緒方一夫博士・細石真吾博士同定)

(3)2006年5月、3個の蛹からキアシブトコバチが羽化。

6. 今後の課題

徳島県では、調査者は多くはありませんが、主要なポイントについては、移動期には、早朝から夕方までかなり密度の濃い調査ができていると考えています。

しかし、島嶼(伊島や大島、出羽島など)や阿讃山脈側での調査がまだ不十分であり、今後これらの地域の調査を進める必要があると考えています。

また、夏の世代が平地において、これまで食草として記録がなかったヤマワキオゴケを利用しているかどうか調査する必要があります。同時に、夏季に剣山系などで見られる個体群へのマーキング調査がまだまだ不十分で、山地での発生状況と、その世代の移動コースなどの調査もすすめたいと思います。(館長)



図4 ヤマワキオゴケを食べる終令幼虫(海陽町)

「人形・ひとがた - 祈りから遊びまで -」

人形は、人をかたどったつくり物です。古くは、縄文時代の土偶どぐうにさかのぼることができ、古代には「ひとがた」と言われ、呪術しゅじゆつに用いる形代かたしろでした。後には、祓はらい、依代よりしろ、託宣たくせん、祈禱きとう、守護しゆご、信仰しんこう、祝儀しゆぎなど多目的、多用途で使われる人形へと変化してきました。また、呪術、信仰的要素だけでなく、遊び、芸能、祭礼など、庶民生活のさまざまな場面に人形が登場するようになりました。阿波人形浄瑠璃じようろうりで使われる人形頭も、こうした人形の一つとして位置づけることができます。

この企画展では、身近にあるさまざまな人形の使われ方を紹介します。

◎主催 徳島県立博物館

◎会期 平成23年

4月23日(土)～6月5日(日)

休館日：月曜日

◎会場 博物館企画展示室

◎観覧料

一般200円／高校・大学生100円／

小・中学生50円

※20名以上の団体は2割引

※土・日・祝日は小中高生無料

※学校教育での利用は無料

◎関連行事

記念講演会

演題 「人形のフォークロア」

講師 神野 善治 氏

(武蔵野美術大学造形学部教授)

日時 5月8日(日) 13:30～15:00

会場 文化の森・イベントホール

※参加無料

「三番叟まわし」公演

演者 阿波木偶箱廻しを復活する会

解説 辻本 一英 氏

(阿波木偶箱廻しを復活する会顧問)

日時 4月24日(日) 14:00～15:00

会場 博物館企画展示室

※観覧料が必要です。

展示解説

日時 5月1日(日)、22日(日)

いずれも14:00～15:00

※観覧料が必要です。



図1 土偶(千葉県余山貝塚出土)〔辰馬考古資料館蔵、重要文化財〕



図2 ひとがた(観音寺遺跡出土)〔徳島県立埋蔵文化財総合センター蔵、左・中:徳島県指定有形文化財〕



図5 おしらさま〔国立民族学博物館蔵、重要有形民俗文化財〕:東北地方で信仰される家の神で、人や馬の顔を彫り、幾重にも布を着せた姿の人形。



図3 オムイカ(六日)の蓑笠人形(美波町赤松):死後6日目につくって川原に立て、自然に川に流れるまでおいておく死者供養の人形。



図4 流しびな:桃の節供の日、病や穢れけがを移して川に流す人形。ひな人形の古い形は流しびなだったとされる。



図6 伏見人形二人の子ども〔国立民族学博物館蔵〕:伏見人形は代表的な土人形の一つで、各地の土人形や郷土玩具かんぐの原形になったといわれる。

デジタルデータからレプリカをつくる

さまざまなかたちで博物館の展示などに利用されている「レプリカ」ですが、その製作にはきわめて高度な技術が必要で、実に手間のかかるものです（博物館ニュース No.20「レファレンスQ&A」参照）。そのため、レプリカの製作にはかなりの期間と費用が必要となります。

ところで、最近、レーザー技術を応用して、物体表面の精密な3次元情報を得ることができるようになり、その技術が文化財調査にも利用されるようになってきました。また、文化財用に開発されたX線CT装置を使うと、精密な内部構造を含む3次元情報を取得することもできるようになってきました。このようにして得られたデジタルデータから、これまでとは比較にならないほどの短時間で、かなり精密な立体模型をつくることができるようになってきたのです。と言っても、これらの機器はきわめて高価で、どこにでもあるわけではなく、簡単に使えるものではありません。

このたび九州国立博物館のご協力で、新しく開館した鳥居龍蔵記念博物館の展示資料の一つであるレプリカを、X線CT調査で得られたデジタルデータをもとに製作していただくことができました。九

州国立博物館は、2005年に開館したもっとも新しい国立博物館で、文化財調査のためのさまざまな最新鋭の機器と、優秀なスタッフをそろえています。

今回製作していただいたレプリカは、鳥居龍蔵が採集してきた多くの資料の中にあつた人骨（頭骨）で、X線CT調査によって得られたデジタルデータを使って、3次元プリンターと呼ばれる機械で作られました。リアル過ぎるレプリカが一部の人に恐怖心を与える可能性があることなどを考慮して、あえて実物そっくりの色味にせず、白っぽい模型のイメージを強く出したものとなりました。なお、展示では見ていただくことができませんが、内面も忠実に再現されています。

もちろん、この技術がこれまでのレプリカ製作技術を不要にするわけではありません。しかし、短時間で低コストで、また容易に複数つくることができるので、うまく利用すれば博物館と利用者の距離を縮められるようになるでしょう。今後、さまざまな場所でさわられるレプリカが増えてくるかも知れません。最新技術を使ってつくられたレプリカを、ぜひ一度ご覧ください。（保存科学担当：魚島純一）



X線CT調査のようす（梱包したままの状態でも調査が可能）



展示されたデジタルデータでつくったレプリカ



パソコンでデータを処理しているところ



吉野川の砂金



砂金^{さきん}とは、川でとれる砂状の自然金のことです。かつて吉野川やその支流で砂金の採掘が行われたことがあり、徳島県内外の町村史に記録されていることもあります。しかし当時の砂金や採掘道具などは、県内にはほとんど残されていません。

2009年、“砂金掘り師”の丸岡正明さん（香川県在住）から吉野川産の実物の砂金の寄贈を受けました（図1）。魚島学芸員^{いけじまがくげい}に蛍光X線分析を依頼したところ、確かに金であり、少量の銀を含むことが確認できました。

寄贈を受けた際、砂金採りにご一緒させていただきました。砂金の選り分けには、パンニング皿（図2）を使います。約6時間で丸岡さんは数粒採集しましたが、私は全く見つけれませんでした。採算が取れる量ではありませんが、現在でも吉野川で砂金が採れること自体が私にとっては驚きでした。と同時に、まったくの初心者がいきなりやってもなかなか見つけれないことも実感できました。丸岡さんを見てみると、ポイントの選び方や土砂の採集・選別の方法、道具の使い方などいろいろなところに秘訣^{ひけつ}があり、かなりの時間をかけて努力されたことがわかり

ます。お聞きしたところ、愛媛県のマイントピア別子（砂金採り体験パーク）に通いつめて要領をつかんだ上で天然の砂金採りを始めたそうです。

砂金の名前はよく知られていると思いますが、実物を見たことがある人はあまり多くないでしょう。常設展示室の「青石はかたる」のコーナーで展示していますので、ぜひご覧ください。

（地学担当：中尾賢一）

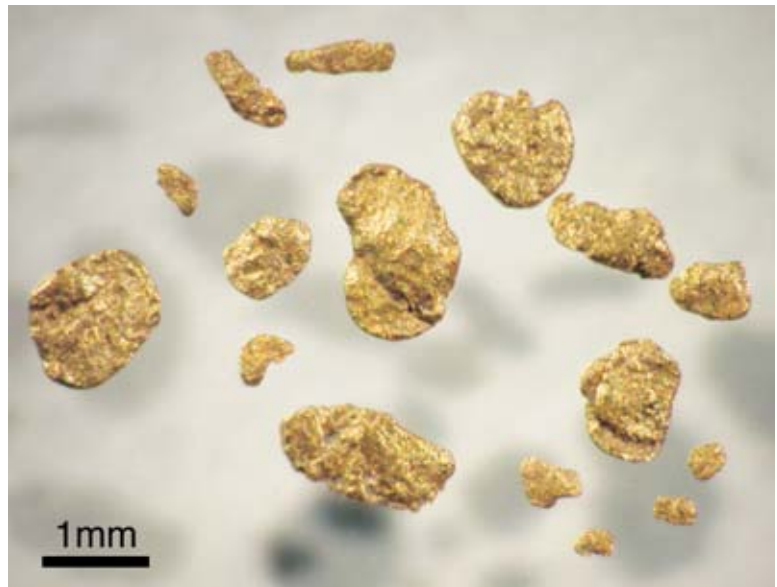
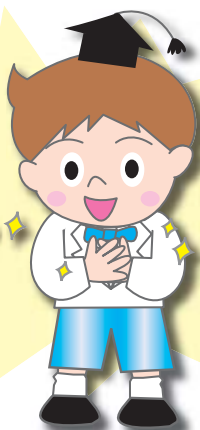


図1 美馬市の吉野川で採集された砂金



図2 パンニング皿。地学用品や鉱物標本などを扱う店で、安いものは1000円くらいで入手可能。価格分を砂金採りで取り戻すには、かなりの時間と根気が必要と思われる。

ぜひ、展示コーナーに見に来てね。



Q

and
A

いのおつねつらほうしょ
**古文書「飯尾常連奉書」は、
 以前展示されていた実物と形が違いますが、
 どうしてですか？**

よくお気づきになりましたね。ご指摘の古文書は、美馬市の個人から当館がお預かりしているものです。過去の企画展などで何度か展示したことがありますから、記憶に残っていたのですね。ご覧になったときは、図1のようなものだったと思います。

この古文書は、文明4年(1472)の日付があり、阿波国守護細川成之(ほそかわしげゆき)(1434～1511)の奉行人である飯尾常連(いのおつねつら)が守護の命令(犬神を操る宗教者を捜して処罰すること)を伝えたものです。宛名の「三好式部少輔(みよししきぶのしょう)」は三好郡、美馬郡等阿波国西部の3郡の守護代であったようです。16世紀に室町幕府の実権を握る三好氏の勢力伸長期の資料としても、興味深いものです。また、中世の犬神信仰に関する資料として、全国的にも珍しいものでもあります。

さて、本題に戻りましょう。現在、常設展の「中世の阿波」には図2のようなものを展示しており、こちらは複製品です。確かに、図1とは形が違います。

しかし、これには理由があります。図1は卷子(かんす)の一部で、全体を広げると図3のようなものです。文字が書かれた紙(a)と白紙(b)が並んで貼り付けられています。どちらも寸法はおおむね縦140mm×横460mmですし、紙質も同じです(紙の端がかなり傷んでいますから、現在の寸法が本来の寸法といえるかどうか分かりません)。



図1 以前に展示したときの状態



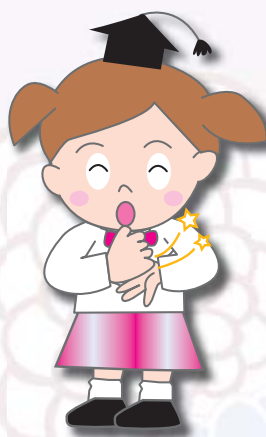
図2 現在展示中の複製品

おそらく、もともとはこれら2枚が1枚の紙だったと思われるます。

このセットから、古文書の原形は、紙を横長に二つ折りしたもの(折紙おりがみ)と考えてよいでしょう。何らかの理由があり、折り目で上下に切断したのでしょうか、それでも離れ離れにならないようにしておいたのでしょうか。aの右側の傷みと、bの左側の傷みに対応するものとみて、上下につなげば、本来の形に近い状態にすることができると考えて製作したのが、現在展示中の複製品(図2)なのです。

博物館資料における複製品ということ、製作時の状態とそっくりに作るものと思われるかもしれませんが、現在知り得る情報をもとにして本来の形に近いものを作る場合もあります。図2は、できるだけその両方を満たせるように作ったものです。こうした背景から、博物館資料や古文書に興味を持っていただければ幸いです。

(歴史担当：長谷川賢二)



なるほどー!!



図3 実物の全体

シリーズ名	行事名	実施日	実施時間	申込	対象(定員)	備考
歴史散歩	古墳見学(香川)	5月29日(日)	8:30~17:30	要	小学生から一般(45)	貸切バス
野外自然かんさつ	眉山の地質見学(徳島市)	4月24日(日)	13:00~16:30	要	小学生から一般(25)	現地集合
	磯の生きもの	5月15日(日)	10:00~12:00	要	小学生から一般(70)	現地集合
	春の植物と昆虫	5月29日(日)	13:30~15:30	要	小学生から一般(20)	
	白亜紀の地層見学(勝浦町)	6月5日(日)	13:00~16:30	要	小学生から一般(25)	現地集合
室内実習	ミクロの世界—電子顕微鏡で植物を見よう!①	6月19日(日)	13:30~15:30	要	小学生から一般(10)	
	スンプでかんたん顕微鏡かんさつ	6月26日(日)	13:30~15:30	要	小学生から一般(40)	
歴史文化講座	文化財の科学調査	5月22日(日)	13:30~15:00	不要	小学生から一般(50)	海南文化館
	中世の写経と勧進聖	6月19日(日)	13:30~15:00	不要	小学生から一般(50)	海南文化館
企画展関連行事	「三番叟まわし」公演	4月24日(日)	14:00~15:00	不要	小学生から一般	観覧料必要
	企画展「人形・ひとがたー祈りから遊びまでー」展示解説①	5月1日(日)	14:00~15:00	不要	小学生から一般	観覧料必要
	企画展記念講演会「人形のフォークロア」	5月8日(日)	13:30~15:00	不要	小学生から一般(300)	文化の森イベントホール
	企画展「人形・ひとがたー祈りから遊びまでー」展示解説②	5月22日(日)	14:00~15:00	不要	小学生から一般	観覧料必要
部門展示関連行事	部門展示「食」展示解説	6月19日(日)	14:00~15:00	不要	小学生から一般	観覧料必要
博物館フェスティバル	こどもの日フェスティバル	5月5日(木)	9:30~16:00	不要	小学生から一般	

◎小学生が参加する場合は、保護者同伴です。

◎企画展の展示解説は企画展観覧料が、部門展示の展示解説は常設展観覧料がそれぞれ必要です(高校生以下は無料)。

博物館友の会に入会しませんか！



義経伝説の道ウォーク



博物館友の会は、さまざまな活動を通じて自然や文化に親しみとともに、会員相互の交流をはかっています。2011年度も楽しい行事が予定されています。みなさんも参加してみませんか？

■年会費 ・個人会員 2000円 ・家族会員 3000円
 ■会員の特典

- ・年間を通して博物館の常設展、企画展の観覧料が無料になります。
 - ・友の会の出版物やミュージアムショップの品物を割引価格で買うことができます。
 - ・催し物案内、博物館ニュース、会報等が送付されます。
- くわしくは友の会事務局まで(電話 088-668-3636)

学校の先生方にお知らせ！

学校で 授業で 博物館を活用してみませんか？

徳島県立博物館では、博物館のもつ資源(もの・情報・人)を学校教育の場で有効に活用していただきたいと考えています。

- 遠方で展示の見学ができます。
- 博物館で授業ができます。
- 出前授業をしています。
- 博物館資料の貸し出しをしています。



学習内容に関する質問など、何でもお気軽におたずねください。

動物、植物、地学、考古、歴史、民俗、美術工芸といった専門分野の学芸員がご相談に応じます。

すべて無料ですので、まずは博物館普及課までお電話ください。



普及行事のお申し込みについて

- ◎1枚の往復はがきには、1行事だけにしてください。
- ◎行事日の1カ月前から10日前までに必着で右記までお申し込みください。
- ◎返信用はがきの住所・氏名も忘れずに記入しておいてください。
- ◎希望者が多数の場合は抽選とし、詳しいことは当選された方にお知らせします。
- ◎原則として、参加費は無料です。

往復はがき記入例

〈往信の表面〉	〈返信の裏面〉	〈返信の表面〉	〈往信の裏面〉
50 〒770-8070 往信 徳島市八万町 向寺山 徳島県立博物館 普及課	何も書かないで ください	50 〒□□□-□□□□ 返信 あなたの 郵便番号 住所 氏名	1.参加希望の 行事名 2.参加希望者 全員名(学年) 3.住所 4.電話番号

※お問い合わせは、徳島県立博物館 普及課へ(電話 088-668-3636)